

職員による自己評価

**A環境面**

トイレや水回りに行くのに、小さな段差があり、スロープや手すりの設置がない。

**B児童への支援内容**

日々、その日の支援内容・活動のねらいを全職員に共有するようにしている。支援の開始前に、ご利用になられる利用者様の特性を再確認し、役割分担している。支援終了後には終礼にて支援内容の振り返りを行い、各自気付いた点を他の職員に共有している。個人面談や連絡帳で保護者様のご意見ご要望を伺い、支援計画に反映させている。

**C関係機関との連携**

学校との連携においては、お迎えに行った際、担任の先生からその日の様子をお伺いしたり、デイでの様子をお伝えしたりすることで情報共有をしている。地域交流や定型発達児との交流を目的として、地元の公園やプレイパークを積極的に利用させていただいている。

**D保護者への説明責任・信頼関係**

送迎時に、その日の活動の様子・頑張っていた点・難しかった点をお伝えている。連絡帳では、利用者様の抱えられている課題や子育てのお悩み等記載し、ご迷惑を、ともに考えたり提案し合ったりといった関係性ができている。今年度は、家族参加のバザーを企画し、普段の療育の様子をご家族に見ていただく機会となった。

**E非常対応**

避難訓練を毎月実施し、防災教育と実践を繰り返すことで、緊急時の対応が浸透してきている。職員間で自衛消防組織を組み、普段から緊急時を想定するよう意識をしている。

保護者による評価

**A環境面**

建物自体にエレベーターがないため、バリアフリー化の配慮がされているとは言えない。

職員数や活動スペースについては、一日の利用者数がどのくらいいるか見えていないので、十分かどうかはわからない。

**B児童への支援内容**

支援計画は子どもの課題や保護者のニーズに則したものになっている。活動プログラムも、固定化しないよう工夫されていて、契約曜日だけでなく追加利用したいと思う内容になっている。

職員の人柄や熱意、愛情が伝わり、安心して通わせることができている。

子ども自身、とても楽しくデイに通っている。

感染対策のため、障害のない子どもとの交流は難しい状況が続いている。

**C事業所からの情報発信**

日頃から連絡帳や電話で子どもの状況を伝えあっており、子どもの課題について共有できている。

新たな加算などの利用料の改定があった時には、説明してもらえるようになった。

毎月もらう活動報告は、子ども自身が楽しみに待っており、ファイルして時々見返している。

**D非常対応**

避難訓練は毎月行われている。

緊急時対応マニュアル等の各種マニュアルについては、詳細を周知徹底されているとは言えない。

事業所内での分析

**【共通点】**

- ・支援については、保護者の方と緊密に連絡を取り合い、課題やニーズに即したものを計画できている。感染対策をしながら、活動プログラムは工夫して実施できているというご意見を多く頂けた。
- ・関係機関との直接交流は、放課後児童クラブ・就学前関係機関・成人事業所との間で課題が残る。
- ・日々の連絡帳や電話相談・面談を通して、お子様の抱える課題や子育ての悩みを、多く寄せてくださっていて、ともに考え、お互いに提案し合える関係性が築けている。
- ・訓練等の実施はしているが、マニュアルの開示による周知徹底ができているとは言い難い。

**【相違点】**

- ・地域での交流や、障害のない子どもたちとの交流を目的として、近隣への外出を取り入れている。その趣旨や、獲得させたいスキルについて、保護者の方への説明が不足していた。

分析・検討してみても…

### 事業所の強み

小学校1年生から高校3年生まで通われており、それぞれのお子様が、学校や地域を超えた、デイのお友だちとしてのかかわりを広げていっていらっしゃる。曜日ごとに違ったメンバーで活動内容も違うため、『今日は○曜日だから、○○くんこんな遊びをしよう!』と、子どもたち自身が目的を持って通っていらっしゃる。年下の子は年上の子を見本とし、年上の子は年下の子のお手本となるよう子どもたち自身で気付いて活動出来る場所でもある。

職員は、児童の情報を共有できるよう毎日支援開始の前に、児童一人ひとりの特性やポイントを、その日のプログラムに照らし合わせて確認している。同じプログラムに取り組みながらも、皆が成功体験を積んで帰れるよう、目標設定をお子様によって変え、きめ細かい支援を心がけている。

ご家族と職員が、お子さまの課題を共有し、育児のパートナーになれるような関係づくりに重点を置いている。

### 事業所の改善点

就学前受入れ期間および成人事業所や、キッズクラブへの直接訪問は行えていない。

緊急時などの各種マニュアルについては、懇談会や契約の際などに、保護者の方へ説明していく。

職員全員がプログラムの立案・企画へ参加できる仕組みを作る。

### 事業所の改善への取り組み

子どもたちをよく知る職員が、長くお子様を見守っていくためにも、安定して働けるよう、研修や業務改善を重ね、理解や定着に努めます。

就学前機関への訪問は、保護者の方にご了解をいただいた上で、支援の継続の為にやっていきたいと思えます。

成人事業所への訪問は、まずは近隣の施設訪問を企画していきたいと思っています。

障害のない子どもたちとのかかわりについては、近隣の公園やプレイパークへの参加により、積極的に輪を広げてまいります。

非常時の各種マニュアルにつきましては、懇談会や契約の際に、保護者の方にご説明していきたいと思えます。

### ～自己評価を行っての事業所としての感想など～

この度は、自己評価へのご協力ありがとうございました。

保護者の皆様から頂きましたご意見を、事業所内で共有し改善しながら、より良いサービスの提供に努めて参ります。

ハートリンクを楽しみに来て下さるお子さまの成長に、少しでも関われることを嬉しく思います。

ご家族のみなさまとともに、子どもたちを温かく見守ってまいりたいと思えます。

これからもどうぞよろしくお願い致します。

事業所名：ハートリンク港南台

担当者：藤本 みち